

業務実績報告書

提出日 2020年1月22日

1. 職名・氏名 講師 月僧 厚子

2. 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 日本赤十字看護大学、授与年月 1999.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 母性看護学(2単位 毎年開講) 3年生(2017年度以前～現在) オムニバス
② 内容・ねらい 当科目の新生児期の看護、及び産褥期の看護に関する単元を担当。 新生児期の看護については、新生児の定義・分類、身体的特徴、生理的特徴、胎外生活への適応過程と適応へのニーズ、新生児の情報を得るための技術、日常生活の援助、正常からの逸脱の予防と逸脱時の援助について概説する。更に、新生児の看護を行うための基礎知識と看護技術を統合する試みとして、健康状態の観察・沐浴を中心とした新生児看護技術の演習を行う。 産褥期の看護については、産褥期の定義、出産後の身体的復古・母乳分泌を主とする進行性変化、母性意識の発達、母子関係・母親役割取得、父性の発達、上の子への影響等と、その過程において必要とされる援助について概説する。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ほとんどの学生は身近に妊産婦や赤ん坊と接した体験をもたないため、新生児特有の生理や看護について理解を深め、妊産婦と新生児に対して安全で適切なケアを提供できるよう段階を踏んで丁寧に講義・演習をすることを心掛けている。 新生児期に関する講義では、新生児の解剖生理を成人との比較で示す、解剖生理を根拠として看護の方法を説明するなどの他、映像教材を活用して理解を深める工夫をしている。演習では、実践力を養うために実物大の模型を用いて手本を示し、学生の主体的な練習を促して技術チェックを行い、臨床実習に備えている。2010年度から、新たな試みとして、実習病院の協力を得て臨床実習指導者とのコラボレーションによる演習指導を実施し、参加した学生と臨床指導者双方から肯定的な評価を得ている。 産褥期の看護については、産後の健康管理、親役割取得と家族関係への援助を講義内容の基本とした上で、産科領域において近年重要視されている「産後のメンタルヘルスケア」について指導者講習会に参加して得た最新の知見に基づき講義を行っている。
① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 家族看護論(1単位 毎年開講) 2年生(2017年度以前～現在)
② 内容・ねらい 家族看護の理論編について、わが国における家族看護学の発展過程を概観させ、「家族関係そのものへの看護援助」「患者の健康問題が家族に重大な影響を及ぼしている場合の援助」「家族の健康を守る機能を高める援助」といった、今求められている家族看護のニーズ、目的を確認させたい。また、各家族固有の歴史、社会と家族の相互作用、家族の構造・機能等、家族の援助を行う上で基盤となる諸理論について看護の立場から理解を深める機会としたい。 家族看護の実践編としては、「乳児を持つ家族への援助」「病児を持つ家族への援助」について、児の出生及び疾病によって家族が受ける影響や変化を明らかにし、家族成員個々に加わる新たな役割や生活の再編成等への援助について学ばせたい。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

看護学は患者個人への看護を中心として発達してきたため、家族を患者個人の背景としてしか意識してこなかったという歴史がある。家族看護論を学び始める学生も、既に看護の対象を患者個人として学んでいることもあり、家族看護を学ぶにあたり、対象を理解する上で発想の転換を求められることになるかと推測する。従って、「家族」を「社会と個人との中間的存在」と認識した上で看護の対象と捉え、その特徴を踏まえた上で家族看護の援助の必要性を理解することは、重視して押さえておくべき事柄の一つと考えている。

また、実践編では、教科書や配付資料の理解を深め、実体験から学ぶ機会をもてるよう、学生によるインタビュー・データ（「児の出生によって家族が受ける影響や変化」「児の病気によって家族が受ける影響や変化」の実態等）の発表と意見交換、レポート作成を取り入れている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

母性看護学実習（2単位 毎年開講） 3年生～4年生（2017年度以前～現在） オムニバス

② 内容・ねらい

妊産褥婦、および胎児・新生児の身体的、心理社会的特性について理解を深め、ウェルネスの観点から看護の必要性を考えることを通して基礎的看護実践能力を養う。また、親役割取得、誕生した子どもを含めた家族の再構築といった、母性特有の健康課題について理解を深め、家族成員個々と家族全体の発達を促す援助について学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

妊婦又は褥婦1名を受け持ち看護過程を展開する受け持ち看護実習と、産婦の看護、新生児の看護、妊婦健診時の看護といった機能別実習を組み合わせ、妊娠期から産褥期への心身の変化や援助の実際を広く体験できる実習形態を採用している。また、学生自身が看護専門職として必要な自己の学習課題について考え、達成に向けて主体的に努力しその成果を確認できるよう、個々の学生の課題や目標を理解して学習の過程をサポートすることを重視している。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

看護教育学（1単位 毎年開講） 4年生（2017年度以前～現在）

② 内容・ねらい

教育の意義と基礎的理論について学習し、看護学領域における教育の歴史と現状について基本的知識を学ぶ。実践知としての看護学の教育の特徴について学習し、看護における教育的要素を看護実践に導入する視点について学ぶ。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

看護の長い歴史に比較して看護学は歴史の浅い学問分野であり、要素還元的に発達してきた多くの学問分野に対して全体論的アプローチと実践化を求める看護学は、学問として学ぶ難しさを孕んでいるように思える。講義により科学史における看護学の位置づけを探り、実践知としての看護学の教育の特徴を確認するとともに、実践知を獲得し積み上げる教育、学びのあり方について考察を深め合うことができるよう工夫をしている。H24年度から、教員側と学生側双方から臨床実習の振り返りが書かれた文献を用いて、臨床知（実践知）獲得過程における教員の取り組み、及び学生の学習体験のプレゼンテーションとディスカッションを取り入れた。2018年度は、看護学各論実習受講途中で実習の継続が困難となった学生が受講を選択しており、自身の実習体験を客観的に振り返る上で有効であったとの振り返りをしてきた。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

卒業研究（3単位 毎年開講） 4年生（2017年度以前～現在） オムニバス

② 内容・ねらい

看護実践および看護学を発展させるための科学的思考力を養い、研究的態度を身につけることを目標として、母性看護学領域における各自の問題意識を明確にし、文献学習・実態調査やディスカッションを踏まえながら自己の研究課題に主体的に取り組み、研究論文をまとめる。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

研究過程において自分の位置や行うべきことを確認するために、研究プロセスに添って適宜

勉強会を取り入れている。研究方法を理論的に理解することと実際の調査を照らし合わせ、学びに進展や広がりが出ることを期待している。指導時間を効率よく使用するため、事前に作業状況を mail 添付して面接に臨むなどの工夫をしている。今後の課題として、実際の指導場面では、研究プロセスの各段階においてかなりの援助を必要とするため、学生の主体性を育てる等更なる工夫が必要と考える。

2018 年度は学外研修（「母と子のメンタルヘルスケア指導者講習会」等）で得た我が国の状況に関するデータ、必要な援助に関する知見を研究指導に活かすことができた。又、卒業研究の成果を、国内の学術集会において発表するためのサポートを行った。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名

②内容・ねらい

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

④本学における業務との関連性

(3)その他の教育活動

- ・ 出前講座（福井県助産師職能委員会の活動の一環として）
目的：学童を対象とする性教育出前講座
日時：2017年11月10日（金）
- ・ 本学科内 LED：Learning Education Discussion に参加し、学生の看護実践能力向上に向けた教育的支援について、臨地実習指導担当教員間で勉強会を行っている。
- ・ 希望に応じて卒業生への研究指導を行い学会において発表を行っている。卒業生が研究により得た知見を公に問う機会をもつことは、研究指導の目的の一つである実践変革力を高めるとともに、看護職者としてさらなる研鑽を積むための動機付けとなるものと考ええる。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

①論文

②著書

③学会報告等

- ・ 「産後うつ病への予防的看護介入の効果に関する文献レビュー」 日本母性衛生学会、加藤愛美、月僧厚子、第 60 回学術集会（台風 19 号の影響により 2019 年 10 月 12 日発表中止、デジタルポスター発表に変更 2020 年 1 月～3 月）

④その他の公表実績

(2)学会活動等

学会でのコメンテーター、司会活動

学会での役職など

福井県母性衛生学会 理事 2017 年度以前～2019 年度

学会・分科会の開催運営

福井県母性衛生学会 理事会参加 2017 年度以前～2018

第 30 回福井県母性衛生学会学術集会 開催準備委員 2017 年 6 月 18 日

(3)研究会活動等

① その他の研究活動参加

② その活動による成果

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会 ・2017年度 福井県助産師職能委員会委員
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内の）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 ・2017年度 助産師職能委員会委員主催 助産師スキルアップ研修（2017年10月13日）
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② 社会人・高校生向けの講座 ・2017年度出前講義（日時：2017年7月11日実施、対象：三国高校2年生、テーマ：「母親の出産に参加した子どもの体験」） ・2019年度大学模擬授業（日時：2019年10月25日実施、対象：鯖江高校2年生、テーマ：「上の子どもを含む家族立ち会い出産を行った母親と、出産に参加した上の子どもの、立ち会い出産への準備から、立ち会い出産後までの体験について」）
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
・看護学科実習検討委員会委員 2017年度以前～現在 2018年度、2019年度実習検討委員会委員長 ・看護学科実習全体オリエンテーション担当 2018年度、2019年度 ・カリキュラム検討委員会委員、カリキュラム検討プロジェクト会議委員 2017年度～現在 ・フィンドレー大学国際交流、交換留学生のホームステイ受け入れ（2017年6月23～24日）
(3)学内行事への参加
県内高校訪問による入試説明会（福井高校）2018年6月28日 オープンキャンパス午後の部看護学科の演習（「赤ちゃんの育て方」演習）2017年8月6日
(4)その他、自発的活動など